

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

市町名	尾道市
所属名	高齢者福祉課

### 現状と課題

本市は全国平均に比べ、高齢化率・介護認定率等が共に高い状況にある。人口減少の中、高齢化率は2040年頃まで上昇、高齢者のみの世帯も多く、高齢者の社会参加や活動の場づくり、健康寿命をいかに伸ばすかが重要な課題となっており、高齢となっても本人らしい暮らしを続けていくため、介護予防、自立支援の取組を進めていく必要がある。

タイトル	①ふれあいサロンの普及、推進
区分(あてはまるものにチェックを)	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援、介護予防、重度化防止 <input type="checkbox"/> 介護給付費等適正化

### 第8期における具体的な取組

#### ①ふれあいサロンの普及、推進

住民ボランティアを主体とした地域の高齢者や住民の交流の場「ふれあいサロン」活動を推進することで、地域の高齢者の閉じこもりの解消、介護予防の取組の場として機能していけるように支援する。男性の参加者が少ない傾向にあり、男性が参加しやすいように取組を進める。

#### 目標（事業内容、指標等）

##### ふれあいサロンの普及、推進

高齢者の介護予防や交流の場として、住民主体で、地域の集会所等で開催。

	R2.9(現在)	R3年度	R4年度(R5.3)	R5年度
サロン数	171か所	(175か所)	(180か所)	185か所

※ 括弧内の数値は計画に記載されていない数値

#### 目標の評価方法

##### ●評価の方法

サロンの数等で把握

**取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果)**  
(実績評価)

**実施内容**

ふれあいサロンの普及、推進

R5 年度は、市内において週 1 で運動・体操ができる通いの場が少ない現状を踏まえ、サロン等の通いの場に集まり体操することの重要性を周知するとともに、身近な通いの場の周知を図るため、市内包括や尾道市地域包括ケア連絡協議会との協働で、圏域毎に「おのみち元気づくりマップ」を作成 (R6.3 月)、市ホームページに掲載できた。

市 HP「おのみち元気づくりマップ」 住民主体の通いの場 について  
<https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/22/57803.html>

**自己評価結果 【○】←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)**

ふれあいサロンの普及、推進

R2 年度から新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、全市的に開催を自粛した期間があった。自粛解除後、再開に至らない地域や参加人数が落ち込んだ状況は徐々に解消されつつある。お互い気に掛け合い、電話連絡をする等、助け合う関係づくりが芽生えている。

高齢者の通いの場や参加者が他市町と比較し相対的に少ない状況にある。

サロン開催状況	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3
サロン数	175 か所	175 か所	173 か所	171 か所	169 か所	169 か所	169 か所
開催回数	4,253 回	4,032 回	4,081 回	2,464 回	1,936 回	3,148 回	3,753 回
延参加人数	71,530 人	70,060 人	66,672 人	34,715 人	25,097 人	45,077 人	50,030 人
参加者数/1 回	16.8 人	17.4 人	16.3 人	14.0 人	12.9 人	14.3 人	13.3 人

**課題と対応策**

ふれあいサロンの普及、推進

近所で気軽に立ち寄れる小地域単位のサロンの立ち上げの支援が必要であり、特にフレイル予防効果があるとされる週 1 開催で運動できる集いの場づくりを引き続き推進する。男性参加者が少ない傾向は継続しており、あわせて移動支援等の検討が必要となっている。

サロン支援員、シルバーリハビリ体操指導士会、地域包括支援センター、生活支援体制整備事業(生活支援コーディネーター)、尾道市地域包括ケア連絡協議会地域包括ケア推進部会等との連携協力で地域における多様な活動と連携を図る。

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	②シルバーリハビリ体操の普及拡大
区分(あてはまるものにチェックを)	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援、介護予防、重度化防止 <input type="checkbox"/> 介護給付費等適正化

### 第8期における具体的な取組

#### ②シルバーリハビリ体操の普及拡大

ボランティアで地域の高齢者に体操を指導する「シルバーリハビリ体操指導士」の養成を通じて、体操の普及と介護予防、住民主体の地域づくりを進める。

市 HP 尾道市シルバーリハビリ体操事業について

<https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/22/9838.html>

### 目標（事業内容、指標等）

#### シルバーリハビリ体操の普及拡大

指導士の活動支援を行い、地域における介護予防活動の充実を図る。

介護予防・フレイル予防がより効果的なものとなるよう、指導士会とともに普及推進を図る。

	R2.9(現在)	R3 年度	R4 年度(R5.3)	R5 年度
指導士数(1級・2級)	370 人	(400 人)	(430 人)	460 人
体操教室数(定期開催)	102 か所	(105 か所)	(110 か所)	115 か所
体操参加延人数	(R1 年実績) 25,542 人	(26,000 人)	(27,500 人)	29,000 人

### 目標の評価方法

#### ●評価の方法

シルバーリハビリ体操指導士からの実施報告書等で把握

**取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果)**  
(実績評価)

実施内容																																							
<p>シルバーリハビリ体操の普及拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R5 年度は、シルバーリハビリ体操のチラシを改定、市 HP に掲載した。</li> <li>・ R5 年度に事業開始より 10 年を迎え、R6 年 4 月には指導士会が結成 10 周年となる。県内 3 市町の指導士交流会の継続、R5 年 7 月、全国シルバーリハビリ体操指導士連合会交流会が本市で開催される等、他市町の指導士との交流も広がった。</li> </ul>																																							
自己評価結果 【○】←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)																																							
<p>シルバーリハビリ体操の普及拡大</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 10%;">R3.3</th> <th style="width: 10%;">R4.3</th> <th style="width: 10%;">R5.3</th> <th style="width: 10%;">R6.3</th> <th style="width: 10%;">R5 年度目標</th> <th style="width: 10%;">結果</th> <th style="width: 10%;">達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指導士数(1級・2級)</td> <td>400 人</td> <td>400 人</td> <td>415 人</td> <td>429 人</td> <td>460 人</td> <td>○</td> <td>93.3%</td> </tr> <tr> <td>体操教室数(定期開催)</td> <td>106 か所</td> <td>107 か所</td> <td>111 か所</td> <td>114 か所</td> <td>115 か所</td> <td>○</td> <td>99.1%</td> </tr> <tr> <td>体操参加延人数</td> <td>15,524 人</td> <td>11,065 人</td> <td>20,813 人</td> <td>26,291 人</td> <td>29,000 人</td> <td>○</td> <td>90.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>R2 年度から、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、全市的に開催を自粛した期間がある。市 HP やケーブルテレビで体操動画や放送等を継続。</p> <p>体操教室の数は概ね計画どおりだが、教室開催頻度の多くは月 1～2 回にとどまっている。体操の効果等について県立広島大学による研究が進められ、市内の軽度要介護認定率が減少傾向を示し、指導士さん自身の健康維持につながっているとの報告がある。R4 年度よりモデル的にリハビリ専門職に教室に関わってもらい、より効果的な取組になるよう支援体制整備を進めている。</p>									R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R5 年度目標	結果	達成度	指導士数(1級・2級)	400 人	400 人	415 人	429 人	460 人	○	93.3%	体操教室数(定期開催)	106 か所	107 か所	111 か所	114 か所	115 か所	○	99.1%	体操参加延人数	15,524 人	11,065 人	20,813 人	26,291 人	29,000 人	○	90.7%
	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R5 年度目標	結果	達成度																																
指導士数(1級・2級)	400 人	400 人	415 人	429 人	460 人	○	93.3%																																
体操教室数(定期開催)	106 か所	107 か所	111 か所	114 か所	115 か所	○	99.1%																																
体操参加延人数	15,524 人	11,065 人	20,813 人	26,291 人	29,000 人	○	90.7%																																
課題と対応策																																							
<p>シルバーリハビリ体操の普及拡大</p> <p>体操教室の多くは月 1～2 回の開催頻度である。より効果的なフレイル予防とするための動機付けや、指導士のモチベーションの維持向上の取組、養成講習会の更なる周知が必要であり、リハビリ職等による通いの場の支援体制の整備を進める。また、短期集中型通所サービス終了後の社会参加の場として更に周知を図る。</p>																																							

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	③ 医療・介護等の多職種連携と重層的支援（地域共生）
区分(あてはまるものにチェックを)	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援、介護予防、重度化防止 <input type="checkbox"/> 介護給付費等適正化

<p><b>第8期における具体的な取組</b></p> <p>③ 医療・介護等の多職種連携と重層的支援（地域共生）</p> <p>③-1 尾道市地域包括ケア連絡協議会や尾道市介護支援専門員連絡協議会（ケアマネ協）・市内地域包括支援センター等と連携して進める。</p> <p>③-2 「8050問題」「ひきこもり」「ヤングケアラー」等、複雑複合化した課題が顕在化している中、「尾道市地域共生包括化推進会議」を設置、地域共生社会の実現に向け、重層的支援体制の整備を進める。関係機関がチームで「よりそう」支援を行い、支援者や市民が「つながる」、より良い福祉の提供に向けた取組を進める。</p> <p>市 HP 地域包括ケアシステムの更なる充実に向けた取り組みについて          (医療介護連携、保険事業と介護予防の一体的実施、地域共生・重層的支援)  <a href="https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/22/62352.html">https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/22/62352.html</a></p>	
<p><b>目標（事業内容、指標等）</b></p> <p>1 医療介護連携 尾道市地域包括ケア連絡協議会など          医療介護の連携の更なる充実に向け、尾道市地域包括ケア連絡協議会と地域包括支援センター等が連携して、地域包括ケアの深化や多職種連携の取り組みを実施。</p> <p>2 重層的支援（地域共生） 尾道市地域共生包括化推進会議など          地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制を構築するため、包括的相談支援、多機関協働、アウトリーチなどを通じた伴走支援に取り組む。尾道市は「重層的支援体制整備事業への移行準備事業」（R3年度～）を実施。          R2.5 「福祉まるごと相談窓口」設置 R3.1 「尾道市地域共生包括化推進会議」設置          R4.3 課題解決会議「ひきこもり部会」 R4.6 ひきこもり支援ステーション 開設</p>	
<p><b>目標の評価方法</b></p> <p>●評価の方法</p> <p>1 実施報告書等で把握</p> <p>2 会議開催や実施記録等で把握</p>	

**取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果)**  
(実績評価)

実施内容
<p>1 医療介護連携 尾道市地域包括ケア連絡協議会など R5 年度、尾道市地域包括ケア連絡協議会の各部会はオンライン・集合で開催、研修はオンラインで開催。医療介護連携部会は、お薬手帳の「情報共有シート」改定版(黄色)の周知と、医療介護連携について協議した。研修部会は、R5 年度は 3 回実施。「介護・生活支援の場面に欠かせない! むずかしくない医療知識の研修」と題し現場の介護職員向けに開催。地域包括ケア推進部会は、地域課題の把握を実施し、通いの場の創生として、まずは身近な通いの場の周知を図るため、市内包括 C 等との協働の中で「おのみち元気づくりマップ」を作成 (R6.3 月)、市 HP に掲載した。</p> <p>市 HP 「おのみち元気づくりマップ」 住民主体の通いの場 について <a href="https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/22/57803.html">https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/22/57803.html</a></p> <p>2 重層的支援(地域共生) 尾道市地域共生包括化推進会議など R5.8 「ひきこもりサポーター」(地域のよき理解者)養成、「みらいサポーター」(傾聴支援人)養成された。</p>
自己評価結果 【○】←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)
<p>1 医療介護連携 尾道市地域包括ケア連絡協議会など オンラインにより部会の活動や研修会を再開。一部、圏域においては圏域毎の医療介護ネットワーク会議も再開している。</p> <p>2 重層的支援(地域共生) 尾道市地域共生包括化推進会議など 推進会議、実務者会議、課題解決会議(専門部会)を開催。具体的なケース検討の場である個別ケース会議においては、「困窮」「8050 問題」「ひきこもり」「ヤングケアラー」など、複雑複合化した課題について、分野を超えた支援者ネットワークの対応が形づくられた。</p>
課題と対応策
<p>1 医療介護連携 尾道市地域包括ケア連絡協議会など 引き続き、オンライン等により、多職種連携・医療介護連携の活動を継続する。 圏域毎の医療介護ネットワーク会議の取組やその共有を進める。</p> <p>2 重層的支援(地域共生) 尾道市地域共生包括化推進会議など ・R6 年度から、本市は重層的支援体制整備事業に取り組む。尾道市地域共生包括化推進会議は、「おのみち会議」とする。 ・引き続き多機関連携で、8050 世帯・ヤングケアラー等、多問題を抱えるケースにおいて、地域の実情や特色等を活かした伴走支援の取り組みを行う。 ・ひきこもり支援においては一定程度整理されたことに伴い、「みらいネット会議」が会議体を担い、課題解決会議としては廃止。(R5.10 月) ・R6 年度から、課題解決会議として「権利擁護」の仕組みづくりに取り組む。 ・地域包括支援センターを中心に開催する「地域ケア会議」「地域ケア推進会議」、生活支援体制整備事業における「協議体」と連携した課題解決や協議との更なる連携を図る。</p>

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	④ 自立支援型ケアマネジメントの推進
区分(あてはまるものにチェックを)	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援、介護予防、重度化防止 <input type="checkbox"/> 介護給付費等適正化

第8期における具体的な取組				
<p>④ 自立支援型ケアマネジメントの推進</p> <p>自立支援・介護予防の観点を踏まえ、要支援者等の生活行為の課題の解決や状態の改善に導き、自立を促すことにより高齢者のQOLの向上を目指す「尾道市自立支援型地域ケア会議」をR3年6月から定期開催。自立支援型地域ケア会議マニュアルをもとに、事例検討を積み重ね、明確化された地域課題については、地域づくりや資源開発につながるよう検討している。</p> <p>市HP 尾道市自立支援型地域ケア会議を開催しています  <a href="https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/22/54916.html">https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/22/54916.html</a></p>				
目標（事業内容、指標等）				
<p>自立支援型ケアマネジメントの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型地域ケア会議の開催と充実。（R3年6月～ 隔月開催）</li> <li>・自立支援型ケアマネジメントについて、尾道市地域包括ケア連絡協議会やケアマネ協等、各種研修会で取組みを啓発。</li> </ul>				
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度予定
自立支援型地域ケア会議の開催	未実施	5回	6回	6回
目標の評価方法				
<p>●評価の方法</p> <p>自立支援型地域ケア会議の開催回数</p>				

取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果)  
(実績評価)

実施内容					
自立支援型ケアマネジメントの推進 ・2ヵ月に1回(概ね2事例)開催。 ・R5.7、尾道市内事業所の専門職に向け、広島県地域包括ケア推進センターによる助言者研修を開催した。(今後の圏域毎での自立支援型地域ケア会議の開催を見据えて)					
自己評価結果 【○】←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)					
自立支援型ケアマネジメントの推進 ・2ヵ月に1回(概ね2事例)開催。(R3年度;5回、R4年度;6回、R5年度;6回)					
	R3年度	R4年度	R5年度	結果	達成度
自立支援型地域ケア会議の開催	5回	6回	6回	○	100%
・16回までの傾向と課題をまとめ市地域包括ケア連絡協議会各部会で実施報告をし意見を伺った。 ・市のホームページ内に、自立支援型ケアマネジメントの検討事例の傾向と課題まとめを掲載した。					
市HP 第1回～16回事例の傾向と課題(令和5年度) [PDFファイル] <a href="https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/uploaded/life/70845_186341_misc.pdf">https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/uploaded/life/70845_186341_misc.pdf</a>					
課題と対応策					
自立支援型ケアマネジメントの推進  自立支援型地域ケア会議を偶数月で開催。ハイブリッド開催(集合+WEB)で、多くの専門職の傍聴参加ができた。R5年度後半においては、助言者の会場参加も増えた。 R6年度においては、圏域内で実施できるところについては圏域内での実施することとしており、2圏域で実施を予定している。					

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	⑤保険と介護の一体的実施
区分(あてはまるものにチェックを)	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援、介護予防、重度化防止 <input type="checkbox"/> 介護給付費等適正化

<b>現状と課題</b>
<p>本市は全国平均に比べ、高齢化率・介護認定率等が共に高い状況にある。人口減少の中、高齢化率は2040年頃まで上昇、高齢者のみの世帯も増え続ける見込みであり、高齢者の社会参加や活動の場づくり、健康寿命をいかに伸ばすかが重要な課題となっており、高齢となっても本人らしい暮らしを続けていくため、介護予防、自立支援の取り組みを進めていく必要がある。</p>
<b>第8期における具体的な取組</b>
<p>⑤保険と介護の一体的実施</p> <p>健康寿命を延ばし、住み慣れた地域で健康的な生活を送るため、より効果的な介護予防の実施を目指して、「尾道市高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業」をR3年度から展開し、健診・医療・介護データを活用した支援に取り組んでいる。</p> <p>ハイリスクアプローチ（個別的支援）として、KDBデータをもとに「健康状態不明者の把握」「重複・多剤投薬者への相談指導」等を、ポピュレーションアプローチ（集団指導）として通いの場における「おのみちフレイル予防チャレンジ」等を実施している。</p> <p>市HP 地域包括ケアシステムの更なる充実に向けた取り組みについて          (医療介護連携、保険事業と介護予防の一体的実施、地域共生・重層的支援)  <a href="https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/22/62352.html">https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/22/62352.html</a></p>
<b>目標（事業内容、指標等）</b>
<p>尾道市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業（R3年度～）</p> <p>地域の特性や健康課題、高齢者一人ひとりの状況を把握し、高齢者の保健と介護を一体的に取り組むことで、高齢者が地域で健康的な生活を送ることを目的に実施する。</p>
<b>目標の評価方法</b>
<p>会議に参加し協働実施。          地域包括支援センターとも連携した事業実施を図る。</p>

**取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果)**  
(実績評価)

実施内容
<p>尾道市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業  R5 年度も引き続き、ハイリスクアプローチ(高齢者に対する個別的支援)として「健康状態不明者」「重複・多剤投薬者への相談・指導」を、ポピュレーションアプローチ(集団指導)として通いの場における「おのみちフレイル予防チャレンジ」を実施した。</p>
自己評価結果 【○】←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)
<p>尾道市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業  R5 年度、「健康状態不明者」は、中央圏域にて実施。KDB データにおいて 76 歳以上 85 歳以下で医療・健診・情報が無い人を抽出、72 人にアンケートを実施、支援が必要な方の把握ができ支援した。  「重複・多剤投薬者への相談・指導」は、薬剤師会の協力により、多剤処方は約 26%、重複服薬は約 68%、相互作用(併用禁忌)は約 62%で何らかの改善が得られている。  「おのみちフレイル予防チャレンジ」は、市内の通いの場 10 か所を対象に、保健師や栄養士等によるフレイル予防の普及啓発を行い、支援が必要な方について必要な介入や支援ができた。</p>
課題と対応策
<p>引き続き R6 年度も、尾道市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業を実施する。</p> <p>「健康状態不明者」は、R6 年度、向島圏域で実施予定。  「重複・多剤投薬者への相談・指導」は、R5 年度は 2 年目の実施であったが初年度と同等の削減効果が得られており継続して実施する。  「おのみちフレイル予防チャレンジ」は、各圏域で実施する通いの場を変え、多職種連携が図られかつ高齢者が主体的にフレイル予防に取り組めるよう、事業推進を図ることとしている。</p>

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」